

外国，特に中国の蚕糸状況について

蚕糸砂糖類価格安定事業団 副理事長 武智敏夫

1. 世界の繊維生産数量

区 分	1980年	1990年	1993年	増減比較(%)		同左シェア(%)		
	千トン	千トン	千トン	90/80	93/90	1980年	1990年	1993年
人造繊維	13,731	17,638	18,428	128.5	104.5	46.5	46.0	47.1
綿 花	14,137	18,714	18,966	132.4	101.3	47.9	48.8	48.5
羊 毛	1,581	1,955	1,658	123.7	84.8	5.4	5.1	4.2
絹	56	69	82	123.2	118.8	0.19	0.18	0.21
合 計	29,505	38,376	39,134	130.1	102.0	100.0	100.0	100.0

資料：テキスタイル・オルガノ、絹は事業団推定

(参考) 各国別繭、生糸生産量

国 別	1980年		1990年		1993年				増減比較(%)	
	繭 千トン	生糸 千俵	繭 千トン	生糸 千俵	繭		生糸		93/90	
					千トン	シェア(%)	千俵	シェア(%)	繭	生糸
中 国	250	410	480	680	620	71.0	878	63.9	129.2	129.1
イ ン ド	53.2	66	116.7	191.4	123.5	14.1	223.6	16.3	105.8	116.8
旧 ソ 連	49	73.5	46	68.2	46	5.3	68.2	5.0	100.0	100.0
日 本	73.1	269.2	24.9	95.3	11.2	1.3	70.9	5.2	45.0	74.4
タ イ	3.8	5	17.4	24.5	19.5	2.2	27.5	2.0	112.1	112.2
ブラジル	9.6	19.5	15.8	28.2	19.1	2.2	38.8	2.8	120.9	137.6
そ の 他	40.1	89.8	33.4	64.4	34.1	3.9	66.6	4.8	102.1	103.4
合 計	478.8	933.0	734.2	1,152.0	873.4	100	1,373.6	100	119.0	119.2

資料：事業団調査(推定)

2. 世界の絹需給 (生糸ベース)

単位 (1000俵)

年次 国別	1980					1990					1993				
	生産量	輸入量	輸出量	内需	生産量	輸入量	輸出量	内需	生産量	輸入量	輸出量	内需	生産量	輸入量	輸出量
中国	391	1	222	170	680	25	458	247	878	105	646	337			
インド	66	7	14	58	192	15	37	170	224	32	42	214			
日本	269	158	16	411	95	202	13	285	71	298	11	358			
旧ソ連	74	5		79	68	14		82	68	14		82			
ブラジル	20		16	4	28		24	5	39		37	2			
韓国	55	5	53	6	16	77	77	16	11	109	105	16			
欧州5カ国		88	33	56		227	75	153		246	78	168			
アメリカ		61	3	58		115	6	109		144	6	139			
その他	45	114	82	78	68	277	262	80	83	283	306	58			
合計	920	439	439	920	1,147	952	952	1,147	1,374	1,231	1,231	1,374			

注：1. 原則として、各国の通関統計あるいは生産統計により推計。

2. 内需には当該国の年初在庫と年末在庫の差が含まれており、在庫数量そのものは含まれていない。

3. 欧州5カ国の輸出入には、域内（当該5カ国）における輸出入数量を除いた。

4. 本表は事業団が作成したが、内需の推定等に問題があるので、外部に出していない。

3. 中国の概要

(1) 繭生産

(単位:トン、%)

省 別	1980年		1990年		1993年	
	家蚕繭	柞蚕繭	家蚕繭 (シェア)	柞蚕繭	家蚕繭 (シェア)	柞蚕繭
四 川	91,750	250	143,448 (29.9)		204,440 (28.7)	
浙 江	65,000		117,975 (24.6)		131,872 (18.5)	
江 蘇	38,200		120,021 (25.0)		172,293 (24.2)	
広 東	21,650		25,488 (5.3)	47	40,810 (5.7)	409
山 東	10,500	6,350	13,725 (2.8)	2,304	37,106 (5.2)	2,419
湖 北	5,700	1,450	7,007 (1.5)	845	16,145 (2.3)	86
安 徽	4,500		18,840 (3.9)	4	33,912 (4.8)	596
陝 西	2,850	50	9,504 (2.0)	1	14,035 (2.0)	
その他	9,650	67,550	24,171 (5.0)	51,041	61,009 (8.6)	41,535
合 計	249,800	75,650	480,179 (100)	54,242	711,622 (100)	45,045

資料: 中国国家统计局

(2) 生糸類生産

(単位:トン)

省 別	1980年	1990年	1993年	シェア(%)
浙 江		15,300	26,300	(28.0)
四 川		14,600	22,200	(23.6)
江 蘇		13,300	23,500	(25.0)
山 東		2,400	5,200	(5.5)
広 東		2,400	5,100	(5.4)
安 徽		1,800	2,000	(2.1)
陝 西		800	1,100	(1.2)
湖 北		600	1,200	(1.3)
その他		5,400	7,400	(7.9)
合 計	35,400	56,600	94,000	(100)

注: 1980年は省別内訳不明

資料: 中国国家统计局

(3) シルクの輸出

＜生糸輸出実績＞

	数量(トン)	金額(億ドル)
1987	9,242	2.33
1988	9,404	3.04
1989	11,361	5.26
1990	7,608	3.60
1991	7,919	3.40
1992	7,671	2.53
1993	6,206	1.49
93/92 (%)	80.9	58.9

資料：中国海関総局

＜生糸類国別輸出実績＞ (単位：トン)

	1990	1991	1992	1993	増減率(%)
日本	1,831	3,104	1,842	1,327	15.3
ドイツ	1,830	1,067	1,010	717	8.3
香港	1,410	1,759	2,339	2,226	25.7
旧ソ連	805	457			
インド	843	924	1,906	2,450	28.2
スイス	345	317	410	173	2.0
イタリア	279	114	638	711	8.2
その他	668	777	754	1,073	12.4
計	8,011	8,519	8,899	8,677	100

資料：中国海関総局

(4) 絹織物の輸出

＜絹織物輸出実績＞

	数量(万m)	金額(億ドル)
1987	15,035	4.59
1988	20,988	6.81
1989	17,309	7.16
1990	17,369	7.70
1991	15,002	6.33
1992	14,786	5.15
1993	15,885	4.10
93/92 (%)	107.4	79.6

資料：中国海関総局

(5) 生糸類の価格動向

＜日本向け保税生糸輸出価格の推移＞

＜中国国内の価格＞

年 月	20・21中3A	備 考	繭(元/匁)	生糸(元/匁)
1985年8月	26.00	CIF		
86年5月	26.78 (3%アップ)			54~56
9月	27.45 (3%アップ)			
87年4月	28.82 (5%アップ)			80~90
9月	29.40 (2%アップ)			
88年1月	30.90 (5%アップ)			120
2月	33.10 (7%アップ)			
4月	35.10 (6%アップ)			
7月	43.00 (23%アップ)	C&Fに変更		
10月	48.00 (12%アップ)			
89年4月	50.00 (4%アップ)			
10月		一部、高格ものアップ		
90年2月		一部、高格ものアップ	6月 10	150~180
9月	44.00 (12%ダウン)			
91年4月		一部、高格ものアップ	5月 11	200
12月	36.00 (18%ダウン)			
93年1月	30.00 (17%ダウン)			
4月	(実質平均20%の値下げ)		5月 12~14	150~160
10月	32.00 (7%アップ値下げ継続)	一律2ドルアップ		
94年1月	(実質16~18%の値下げ)		2月 10~12	180
10月	(実質14~16%の値下げ)	高格もの値下げを縮小	24	210
95年2月	A:27.70 B:26.50 C:25.50	A, B, Cの産地ごとに価格を明記		

(6) 今後の見通し

- ・繭生産の増産基調は国家的な重要農作物として変わらないだろう。
- ・近年の国際生糸市場の下では、シルクの規模拡大は見込めないところだが、日本の伝統衣装である「きもの」の需要が維持されるならば、やはり今後も日本は一大生糸消費国としての輸出相手国となりうるだろう。
- ・また、一時、粗悪で安価な中国絹製品がヨーロッパ市場へ流入し、シルクのイメージを低下させたが、その後ヨーロッパでは、これら製品の棲み分けが可能となり、現在の輸出水準で輸出可能であろう。
- ・中国の絹内需は、今や日本を抜く世界一の規模に達している。このことは「現在中国国内のシルクの消費は生産の3分の1を占め、これは既に日本の需要を上回っている」との中国シルク（株）要人の発言からもうかがえ、今後も内需は増加基調で推移するだろう。
- ・最近の中国では、日本、香港など海外との合併による縫製加工基地化が進んでおり、これらの技術ノウハウは遠からず絹産業の高次加工施策へ応用され、内需の増加と相俟って、今後中国の蚕糸絹業は、規模拡大の道をたどるだろう。